

# きつねの絵筆

遠野物語ファンタジー「きつねの絵筆」は2月18・19日の両日、市民センター大ホールで3公演上演。来場した953人の観客は、物語の世界に魅了されました。

今作は、鍋倉山の多賀神社に住むいたずらキツネと人間がおりなす物語。「遠野物語拾遺」193話と「供養絵額」をモチーフに、萩野友理恵さん（遠野町）が原作・脚本を手掛けました。試行錯誤を繰り返して迎えた2年ぶりの舞台には、市民総勢250人の力が結集。キラリと光るキャストの熱演、支え続けたスタッフの努力が実った舞台は、感動の渦に包まれました。公演当日は、ファンタジーミュージックアンサンブルの生演奏・合唱が物語の世界を引き立て、遠野太神楽やバレエスタジオ、一輪車クラブも出演し舞台を彩りました。制作委員長の菅原伴耕さん（宮守町宮守）は、「49回・50回公演への足掛かりになる舞台になった。コロナ禍で心配もあったけれど、役者も裏方もみんな頑張った。来場いただいた皆さんに感謝を伝え、また、これからも応援してほしい」と思いを語りました。



1\_松葉が術で祭りを見せる。染慈はいたずらを楽しみ、絵のアイデアを得る。遠野太神楽も出演 2\_「オラの顔探してける…」。いたずらは続く 3\_松葉のいたずらが、絵を書けずにいる染慈を救い供養絵を書き上げる 4\_華麗に舞うバレスタメンバー 5\_松葉と五葉姫。熱演で観客を魅了した 6\_「キツネに殺されたんじゃ…」。村人の話を聞き松葉は憤怒



11\_生演奏・合唱がファンタジーの世界を際立たせた 12\_拍手を贈る観客 13\_影で活躍する舞台転換 14\_熱演を見せたキャスト陣



自分にできることが何かの役に立つなら 誰かのために使ってやればいい。



7\_村人に懲らしめられる松葉 8\_死期が近づく中、染慈を弔うための供養絵を書く松葉 9\_「ごめんね…」。絵筆が染慈の寿命を縮めたことを悔いる松葉。最後の力をふり絞り染慈の墓前へ 10\_墓前で死期を迎えた松葉のもとに染慈が。一緒に旅立つラストシーン

## interview インタビュー



主演・松葉役 佐々木 菘音さん 遠野高1年 =宮守町達曾部=

### 夢が叶った

終わってほっとし、寂しさを感じています。劇が好きでファンタジーに出るのが夢でした。主役と言われ、えっ、と思ったけれど挑戦できて良かったです。公演まで大変なことも多かったけれど、家族、役者やスタッフの皆さんに支えられました。ファンタジーは大好きな劇ができる楽しい場所でした。

### 若者も舞台を見てほしい

岩手の市民の舞台の先駆けが遠野物語ファンタジー。観客、役者、音楽、裏方が一体になり、みんなが主役になれる場です。お客さんも舞台をつくる参加者で、笑いや拍手などの反応があっている舞台が出来上がります。ぜひ、若い人にも舞台を見てもらいたいです。関わってみると面白いですよ。



舞台監督 佐藤 芳博さん =松崎町=



## いい絵を書いてくれたな。ありがとう、松葉。

死期を迎えたキツネの松葉、会いたかった染慈とともに。



## ○Voice お客様の声



菊池 文子さん =東館町=

泣かされました。今までの公演で一番感動しました。演技も素晴らしかった。悪いことをしていたキツネが、染慈と触れ合い変わっていく姿に、縁の大切さを感じました。見に来て良かったです。

想像の何倍も感動しました。音楽やバレエなどもうまく融合してすごい。プロの劇団のよう。遠野はホップなど夏に有名なものが多いイメージでしたが、ファンタジーが冬の楽しみになりそうです。

JICA職員の5人 =東京都ほか= 左上から右回りに\_福島さん、朝川さん、丸山さん、関口さん、木村さん



## ●Story あらすじ

多賀神社に住むいたずらキツネの松葉。人間に悪さをしては食べ物をせしめ、腹を満たしていた。ある日、供養絵額の絵師・染慈が通りかかる。いつものようにいたずらを試みるも見破られる。染慈を化かしたい松葉。「いい絵が描ける」といわずらを楽しむ染慈。しだいに心を通わせ、松葉は染慈を喜ばせることにうれしさを覚える。「人のために何かをする。心情が変わる。一緒に絵を書くと約束した日、松葉は染慈の家へ。布団の中には冷たい染慈。光りが消えた——。染慈にあげたキツネの絵筆が死期を近づけたのかもしれない…。悔やむ松葉。悲しむ松葉を、キツネの仕業と思い込んだ村人たちが痛めつける。松葉は命からがら、染慈を弔うために供養絵を書き上げ、墓前へ。死期迫る松葉のもとに——。

染慈さんと もっと一緒に いたかった。

心通じた松葉と染慈の別れ

